

今

私たちにできること

新型コロナウイルス感染症が島根県内でも拡大し、不安をかかえながら過ごしている人も多いと思います。変異株の出現など、状況が時々刻々と変化し、つぎつぎと情報が更新されている今だからこそ、**「不安に負けず」、「正しい情報」を得て、「冷静に判断し行動」する力**が求められると思いませんか。

この感染症の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別がさらなる病気の拡散につながることにあります。私たちは、わからないことが多いと、強い不安や恐れを感じ、冷静な判断ができなくなります。だからこそ、「正しく」情報を集めるようにしましょう。

「正しい情報」の正反対にあるのが、「うわさ話」、「デマ」、「思い込み」などの「誤った情報」です。これらを耳にして、不安になっている人はいませんか。また、そのような「誤った情報」を面白がって、興味本位で拡散している人はいませんか。「うわさ話」にマイナスのイメージがともなうと、「偏見」を生みだし、「偏見」は「差別」を生み出します。

邇摩高校に関する「正しい情報」がどこで得られるのか、考えてみればわかると思います。「誤った情報」かなと思ったら、それを安易に広めることはしないでください。

あなたの大切な人が、この「誤った情報」にふりまわされ、心を痛めることがないよう、あなた自身に出来ることを考えて行動しましょう。あなたの大切な人を、感染症からも、不安からも、差別からも、守ってあげてください。もしも身近な人が感染症にかかっても、**みんなで支え合うことができる、あたたかな学校になること**が大切です。あなたにもできることが、必ずあります。

私事ですが…、保育園に通っている5歳の息子が、園生活のため、マスクを義務づけられるようになりました。親としてわが子を不憫に思いながらも、「できる感染症対策をやっていきます」と、連絡帳に書いて登園させました。担任の先生からは、「ご理解とご協力をありがとうございます」と。

困難な状況に直面したときに必要なのは、そう、「理解と協力」なのだ改めて思います。感染症も、不安も、差別も拡散させたくない！ 邇摩高校での「感染症対策」に、皆さんの「理解と協力」を、どうかよろしくお願いします。



(*この便りは持ち帰り、家庭で「人権」について語り合うきっかけにしてください。人権教育推進スタッフ：森脇)